

2018年4月から成田市の雨水タンクの助成金制度が始まりました。
昨年度、助成金制度を使って雨水タンクを設置した市民の

約半数の方に
せっけんの街の雨水タンク
が選ばれています。



せっけんの街の活動

生まれてくる新しい生命のために
豊かな自然を残したい
住みよい街を作りたい
それが私たちの願い



NPO せっけんの街は、家庭や学校などから回収した廃油（使用済み油）を原料に、環境や人にやさしいリサイクルせっけんを製造、販売しています。1980年、全国一汚いと言われている「手賀沼を守ろう!!」と生協、漁協、労働組合、自然保護団体などが参加し、共に行動を始めたのがせっけんの街の始まりです。当時、洗濯に使われる合成洗剤（生活排水）が沼の水質汚濁の原因になっていました。「沼を汚す加害者は住民（自分）」合成洗剤をやめて環境の負荷の少ないせっけんを使うことで、水環境を少しでも改善したいと、せっけんを使う暮らしの提案を始めました。

「家庭の小さなダム計画」活動を進めています

成田ニュータウンとその周辺に降った雨水は印旛沼に流れ込んでいます。

印旛沼周辺の開発が進み、地面がアスファルトや建物で覆われる事で、雨水が地面に浸透せず、一気に沼に流れ込む現象が起きています。近年のゲリラ豪雨と相まって、雨水と一緒に流れ込む車の排気ガスや市街地の汚れは年々増加しています。

そこで、雨水を貯め、水やりや打ち水に使うことで雨水を一度地面に浸透させ、水循環を取り戻す方法として、雨水タンクの普及活動を始めました。ゲリラ豪雨の時などには、家庭が小さなダムの役割を担うことになります。

災害時の水の確保という防災の観点からだけでなく、水環境を取り戻すためにも、「家庭の小さなダム計画」活動を進めています。

